

鶴岡市文化会館（荘銀タクト鶴岡）財務書類について

令和3(2021)年 5月

このレポートは、鶴岡市文化会館（荘銀タクト鶴岡）のオープン2年目にあたる令和元(2019)年度の財務状況について、民間企業会計の手法にならない、総務省が定めた「統一的な基準による地方公会計制度」（新公会計制度）に基づいて作成した財務書類の概要をお伝えするものです。

これまでの官庁会計による決算だけではわかりにくい資産・負債などのストック情報や、減価償却費等を加えたコスト情報を明確にすることで、市民の皆さんへの説明責任の充実や、マネジメントの強化を今後も図ってまいります。

1 施設の概要



荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）大ホール
（写真提供 鶴岡市教育委員会）

【施設の名称】

荘銀タクト鶴岡（鶴岡市文化会館）
ネーミングライツパートナーを(株)荘内銀行とし、通称を「荘銀タクト鶴岡」としています。

【土地や建物】

- 敷地面積：13,096.84㎡
- 建築面積：5,756.35㎡
- 延床面積：7,846.12㎡
- 構造：鉄骨造、鉄筋コンクリート造、杭基礎
- 整備総事業費：96億7,600万円

【建物内の設備】

- 客席数 大ホール：固定1,120席、多目的鑑賞室：15席
- 貸室 小ホール、練習室、会議室、楽屋、託児室

【開設の時期】

- グランドオープン 平成30年(2018)年4月

2 施設の稼働状況 令和元(2019)年度

【自主事業】

- 開催事業：14件（前年度12件）
事業内容：右表のとおり
- 入場者合計 12,672人（前年度16,205人）

【貸館事業】

- 利用件数：147件（前年度209件）
主な利用：市内小中学校の合同音楽会や、高校吹奏楽部の演奏会、などの市民利用
- 利用者合計 60,274人（前年度89,156人）

【その他】

- 館内見学会の開催
開催回数159回、参加者計1,234名

事業名	実施年月日	入場者数(人)
南こうせつ～あなたの街～コンサート	H31.4.7	1,080
ウィーン少年合唱団鶴岡公演	R1.5.19	1,078
NHK公開収録番組 新・BS日本のうた	R1.5.30	836
家入レオ 7th Live Tour 2019～DUO～	R1.6.30	1,040
ダン活「タクトでふわっとダンス」 インリーチ	R1.5.7～8	20
アウトリーチ・ワークショップ	R1.9.4～7	227
立川談春 独演会 2019	R1.9.28	1,086
CHEMISTRY LIVE TOUR 2019	R1.10.13	1,100
劇団四季ミュージカル『エビータ』	R1.10.26	1,016
きかんしゃトーマス クリスマスコンサート	R1.12.8	1,996
森高千里「この街」TOUR2019	R1.12.20	1,047
ケロポンズ ファミリーコンサート	R2.1.18	803
千住真理子 ヴァイオリン・リサイタル	R2.1.19	767
タクトでつなぐ ピアノリレーコンサート	R2.2.2	236
山形交響楽団庄内定期演奏会 第28回鶴岡公演	R2.3.25	340

オープン2年目の令和元年度は、年度後半にかけて新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、入場者・利用者の落ち込みが見られたことから、施設の稼働状況は前年度を下回る結果となりました。

資産と負債 (賃借対照表)

資産	負債
88億900万円 (前年度 90億2,900万円)	66億2,400万円 (前年度 71億7,400万円)
主な内訳 ●土地 2億2,600万円 ●建物等 85億1,900万円 ●物品等 6,400万円	主な内訳 ●建設費に充てた市債 65億6,200万円
	純資産 21億8,500万円 (前年度 18億5,500万円)

令和2(2020)年3月31日現在

【資産について】

土地建物や物品(ピアノや緞帳、舞台道具)など、事業用の固定資産が、その大半を占めています。

【負債について】

建設費に充てた市債の償還残高が、その大半を占めています。

【純資産について】

資産と負債の差であり、債務なく将来世代へと引き継がれる、純粋な市民の資産にあたります。

【参考指標】 市民一人当たりの 資産と負債

資産 70,644円 (前年71,549円)	負債 53,122円 (前年56,850円)
	純資産 17,522円 (前年14,699円)

鶴岡市の人口

124,697人

(令和2(2020)年3月31日現在 住民基本台帳)

【参考指標】

有形固定資産減価償却率 5.0% (前年度2.6%)
 ~耐用年数に対してどのくらい老朽化が進んでいるか

算式：減価償却累計額/有形固定資産(土地等の非償却資産除く)+減価償却累計額

➤建物の耐用年数は、財務書類の作成基準上、50年と設定されています。竣工から間もないため低水準ですが、減価償却が進むことで、今後徐々に上昇していきます。

➤今後の見通し

資産は、建物や物品の減価償却が進むことで徐々に減となりますが、負債についても、市債が15年間で償還されていく予定であることから、それを上回る早さで減となることが見込まれます。

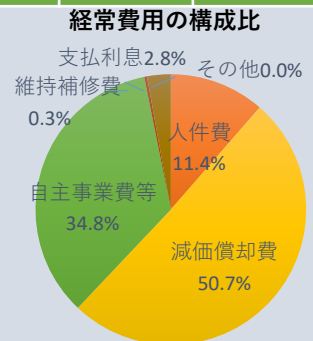
この結果、純資産の形成が進むこととなりますが、建物や設備の経年劣化に計画的に対応し、市民の資産としての価値を保つために、適切に維持補修を図ってまいります。

費用と収益 (行政コスト計算書)

科目名	金額(千円)	前年度(千円)
経常費用	434,042	460,743
人件費 運営にあたる職員の給与等	49,511	65,603
物件費等 減価償却費や自主事業費等	372,272	382,262
支払利息 建設費に充てた市債の利払い	12,208	11,821
その他	51	1,057
経常収益	48,437	62,494
使用料 貸館収入等	16,121	22,279
その他 自主事業の入場料収入等	32,316	40,215
純経常行政コスト (経常費用-経常収支)	385,605	398,249
臨時損失 災害復旧事業費など	-	-
臨時利益 資産売却益など	-	-
純行政コスト	385,605	398,249

【経常費用について】

人件費が前年度から1,600万円減少した他、自主事業(公演など)開催のための経費などが前年比約1,000万円減少し1億4千万円となっています。



【経常収益について】

コロナ禍により、年度後半に貸館収入や入場料収入が減少し、前年比で約1,400万円減少しています。

【純行政コストについて】

経常収支と臨時収支の合計額で、文化会館の運営にあたり、市が負担しているコストにあたります。

【参考指標】

市民一人当たりのコスト 3,092円 (前年度3,156円)

算式：純行政コスト/住民基本台帳人口(124,697人※)
 ※令和2(2020)年3月31日現在

【参考指標】

受益者負担比率 11.2% (前年度13.6%)
 ~費用はどのくらい収益でまかなわれているか

算式：経常収益/経常費用

➤今後の見通し

コロナ禍による収入減は避けられない状況にあります。令和3(2021)年度から指定管理委託による運営に移行し、経常収支の改善、純行政コストの削減など、運営のさらなる効率化を図ってまいります。